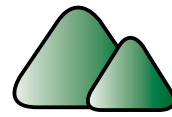


やすぎ の山



平成28年から8月11日は16番目の国民の祝日「山の日」となります。この日は山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日とされています。日本は国土の7割が山林で、安来市もまた、64・1%を山林が占める地域です。私たちは古より、山に畏敬の念を抱き、森林の恵みに感謝し、自然とともに生きてきました。そして暮らして深くかわりながら、人々の豊かな心をも育んでいます。今回、人と山とのつながりに焦点を当て、めぐるめくやすぎの山々をご紹介します。

また登りたいと思うから不思議

— 独松山 —

近年、“山ガール”などの言葉が生まれ、若い人から高齢者まで誰でも力量に合わせて気軽に行ける登山が人気です。

今回、安来を拠点に登山を楽しむ“エッサッサ山の会”の定例会に同行して登山の魅力を体験しました。

登山者に人気の独松山へ

6月26日、吉田交流センターで準備を整え、8時36分に出発です。エッサッサ山の会11名と

目指すは標高320㍎の独松山。アスファルトをしぼらく歩くと別所登山口の案内板が見えてきます。登山道では鳥のさえずりや青々とした植物が出迎え、心地よい涼風が頬を撫でます。列の2番目を歩くのは参加者最高齢83歳の菱本しおさん(飯生町)。3年ぶりに頂上を踏みたいと意気込んでいます。ペースは遅い人に合わせてゆつくりと、しっかり安全を確認しながら進みます。山を楽しむ

むことが会のモットーで、互いに冗談を言いながら、笑顔の絶えない山行です。

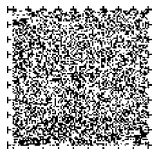
1時間程登ると林道の隙間から眺望が開け、吉田の水田が望める場所に。普段見ることのない絶景も登山ならではのロップが設置された急登を上がり最初の目的地・独松山の三角点へ。中海まで視界が開けた景色が眼下に広がります。続いて中高盛山へ、途中の倒木や急登は、仲間が助け合いながら登ります。

11時39分、2つのピークを経

独松山山頂からみる景色。

エッサッサ山の会

50～80代の山を愛する約30人が所属。毎月一回の定例会を開き、里山から北アルプスまで多くの山を登ります。





独松山

安来平野の南に位置する山。標高320㍎と決して高い山ではありませんが、四方八方から通じる豊富な登山ルートや、地元の人により手入れが行き届いた登山道などで人気。一年を通して登山客の絶えない山です。

山に登る魅力とは

登山の魅力を同会の藤岡昌平さんに尋ねました。「う〜ん。なんでしょうね。風景が目的の人もいるでしょう。人とのふれあいが楽しみな人、達成感を味わいたい人もいるでしょう。ただ、明確な答えを持つ人は少ないのでは。登山は苦しくつらいことが多いのですが、山を下ると今度はどこにいかうかと思うから不思議なんですよ」。藤岡さんの言葉どおり、答えのない魅力が登山者を魅了し続け、何度も山に向かわせるのでしよう。

最後の目的地・高盛山の頂へ到着。登頂後、握手をかわし、互いに労をねぎらいます。悲願の登頂を果たした菱本さんは「山の会の人のおかげでこれた。みなさん、やさしいし、助けてくれ元気がもらえた」と感謝。頂上から見る安来平野の大パノラマは格別で、達成感と爽快感で胸一杯になります。

景色を満喫した後は昼食。持ち寄った赤天や漬物、果物がふるまわれ、さながら宴会のよう。

会の一人は「これが楽しみ。お弁当を忘れても誰かの差し入れでなんとかなるよ」と笑います。

山頂で抹茶をたてるのが会の恒例で、雄大な景色の中での恒例で、雄大な景色の中でい

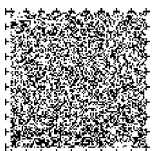
ただく抹茶は日常では味わえない、ぜいたくなひとときです。

束の間の休息を終え、下りは横手登山道に。観音寺跡を巡り、約5時間の山行を終えました。



◀「着いたー」と声を上げて高盛山頂に。疲れも吹き飛びます。

あいが楽しみな人、達成感を味わいたい人もいるでしょう。ただ、明確な答えを持つ人は少ないのでは。登山は苦しくつらいことが多いのですが、山を下ると今度はどこにいかうかと思うから不思議なんですよ」。藤岡さんの言葉どおり、答えのない魅力が登山者を魅了し続け、何度も山に向かわせるのでしよう。





森は生きる力を養う学びの場 — 布部要害山 —

7月4日、布部小学校の裏手にある学校林で布部小一・二年生の児童を対象とした「森の体験と葉っぱアート」が行われました。布部小では、定期的に学校林で体験授業が行われています。今回の講師は森の大切さを伝える活動をする「もりふれ倶楽部」の中村正志さんです。

ヘルメットをかぶり山へ入ると急に大粒の雨。前を歩く女子児童は「雨が降る日に森に入るとなんてわくわくする」となんとも頼もしい。少し登れば四方を自然が囲む別世界が広がります。中村さんがチヂミザサの葉を口に当て「ブー」と草笛を鳴らします。歓声があがり「私もやりたい」と大合唱。見よう見まねでやってみるが難しい。次に中村さんが足を止めたのはタブの木。葉をガジガジと歯でかみ、口を開けると中はネバナです。「この木は布部で作られている線香の原料になるんだよ」と紹介。「へー」と驚きの声。布部の自然を通して「ふ

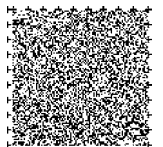
るさと」を学びます。次は樹木のクイズ。問題が出されると子どもたちは夢中になって正解を探します。学校林はコルクの原料となるアベマキやツバキ、タケ、ササなど、さまざまな植物の宝庫です。森の中の楽しい時間はあっという間に過ぎていきます。

いつの間にか雨が止み、木々の合間から布部の町が見えます。森の体験もここで終了。一年生の笹尾風海さんは「いろいろな葉っぱがあつて楽しかった」と笑顔。わずか40分の体験でしたが子どもたちの目はキラキラと輝いていました。

講師の中村さんは、現代の子どもたちには自然体験が不足していると感じています。「森は想像力や人との協調性、物事への対応力など生きる力を養うことのできる場です。島根は素晴らしい環境に恵まれています。子どもたちにもっと自然に親しんでほしい」と願いを込めます。



学校林での体験授業。「クリのとげはどうなっているのでしょうか」、問いかげの答えは森の中で探します。



親しんできた山を何とかしたい — 比婆山 —

古事記にゆかりがあり、国生みの母・イザナミノミコトが葬られたと伝えられる比婆山。ここにも山を中心に新しい風が吹いています。

「5年前の古事記編さん1300年を機に、地域の宝である比婆山を盛り上げようと有志が集まり会を結成しました」と話すのは、比婆山再生活性化協議会の山本智明さん。中心となつて結成時から会の活動を支えています。

「母校の井尻小学校の校歌に比婆山は出てきます。小さいころから親しんだ、また、歴史の

ある比婆山を何とかしたい。想いのある仲間が集まり、登山道や山頂の環境整備をはじめ、イベントに取り組んでいます」。

今年で5年目を迎えた比婆山神話フェスタは、特産市や舞台をはじめ、山頂へのウォーキング大会などを地元の各団体が連携しながら企画・開催しています。また、地域の人のミニサロンのような場所づくりと、観光客への情報提供を兼ねた比婆山観光案内所を、登山道入り口近くに設けています。

この案内所には昨年から新たな助っ人が加わりました。島根

県定住財団の制度を活用して島根にイターンした赤繁久恵さん（広島県出身）。案内所に週末だけの喫茶兼お土産店を営業し、観光客や地元の皆さんに集いの場を提供しています。

「出雲II大社というイメージがありますが、それ以外の地域でも神々しい神社や史跡がたくさんあります。比婆山は、とても可能性を秘めている場所と感じています。協議会の皆さんと協力しながら多くの人に、知られていない比婆山の魅力を伝えたいです」と、現在の活動のきっかけを話します。

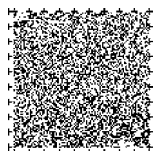
また、「柱状節理や神籠石、陰陽竹など不思議なスポットが

たくさんあります。将来はこのパワースポットと古事記伝来の場所を巡るコースを提案していきたいです」と、新たな構想を考えています。

「もちろん比婆山ばかりではなく、地元の特産品などいいものがたくさんあります。皆さんと試行錯誤しながら、開発や販売にも取り組んでいきたいです。地域のシンボルである比婆山を核に、地域の魅力づくりがこれからも進んでいきます。

に婆タグ（昨月5日）に開催される「ウオーキング大会」の案内所として、柱状節理は国内有数の規模と知られています。

下/比婆山観光案内所で「縄文カフェ」を営業する赤繁さん。背後の山は比婆山。カフェは金～日曜日の営業です。





西比田で行われている植林。
(写真は昨年10月のもの)



よく知ろう！山や森林のチカラ

森林は多くの機能を備えています。二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働きや、水資源を蓄え、空気をきれいにする働きに加え、近年では、人の心身の癒やしを与える働きも注目されています。

災害防止もその一つ。森林の表面の土は、落葉落枝など有機物の蓄積や、それらを食べる土壌生物などの働きによって、隙

間の多いスポンジのような構造になっていきます。このような土壌が雨水を溜め、地下に水を供給し、豪雨時にも、山崩れ、土石流などの災害を防ぎます。

近年、森林の荒廃を感じ、植林を続けている団体があります。広瀬町ふるさとの川浄化実行員会もその一つです。設立のきっかけは平成9年の大干ばつ。布部・山佐の両ダムが渇水

し、供給先の水が止まりました。危機感を募らせた広瀬町の有志が、平成11年から飯梨川源流の西比田地区で植林活動を始めました。毎年10ヶほど市民と一緒に、クヌギ、ヤマザクラなど広葉樹を中心に植林を行い、森林の再生を手掛けています。

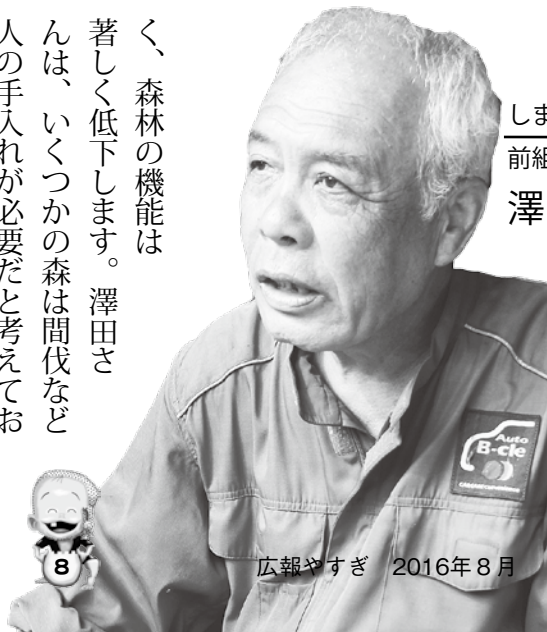
次の世代につなぐため、

山の恵みに感謝しましょう

同会の事務局長で、しまね東部森林組合前組合長の澤田直明さんは「植林した木が機能を発揮するには、最低でも15年ほどかかる。ようやく最初の木々がその時期に達したところで、再生はこれからです」と話します。

「昔は誰もが所有の山にスギやヒノキの針葉樹を植えました。木も財産の一つだったので。ところが時代の変遷とともに木は見向きもされなくなりました。手入れのされない木々が空高くしげり、日光を遮り、暗い森へ変えました。山は荒廃が進んでいます」。このような森は表土があらわになり、災害にもろいうえ、生物多様性に乏し

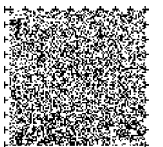
しまね東部森林組合
前組合長
澤田直明さん



く、森林の機能は著しく低下します。澤田さ

んは、いくつかの森は間伐など人の手入れが必要だと考えており、現状に警鐘を鳴らします。

「私たち誰もが山や森林など自然の恩恵を受けています。これらは当たり前にあるように目に付きにくいのですが、とても尊いものです。森林はすぐに再生しません。喪失してからは遅いのです。山の日制定はいい機会です。誰もが山について考え、その価値を認識し、子どもたちのため、次の世代のため、行動を起こしてほしい」と期待を込めます。



登ってみよう。安来の山。

① とかみやま 十神山 (92.9 m) 安来町

民謡安来節の歌詞にも登場する安来港の代名詞的存在。出雲国風土記には砥神嶋として記述されて



います。遊歩道やなぎさ公園が整備され、散策にはお勧めの山です。神様の御座所となることから山の木々には人の手が入らず、海辺の植生を観察できる貴重な山でもあります。

「最近ではキャンプの問い合わせが増えてきました。なぎさ公園からは夜景がきれいですよ」と、安来市観光協会の作野宏美さん。

② きよみずやま 清水山 (107.4 m) 宇賀荘町

③ どくしょうざん 独松山 (320.6 m) 広瀬町、大塚町、能義町

④ くるまやま 車山 (207.8 m) 田頼町、岩舟町、飯梨町

古代は暑垣烽と呼ばれ、「のろし」場があったと風土記に記述されています。現在は国土地理院の三角点が置かれています。

飯梨交流センター松本友和館長は、「平成元年から地元の人によって登山道が整備され、山頂には桜が植えられました。現在も飯梨地区環境保全の会によって年二回、草刈りなどの整備がされ、地元で愛されている山です。岩舟登山口からは30分で登頂できます」と話します。

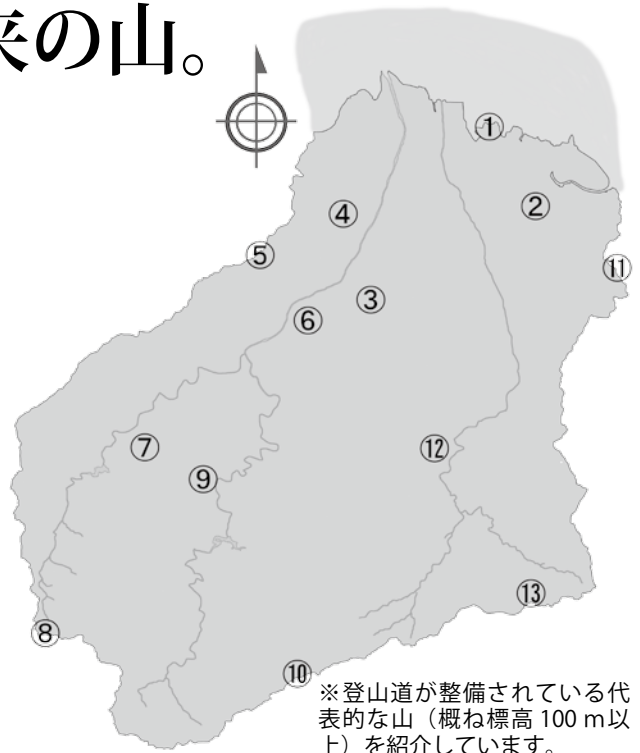


⑤ きょうらぎざん 京羅木山 (473.0 m) 植田町・広瀬町石原

⑥ がっせん 月山 (183.8 m) 広瀬町富田

⑦ てんばやま 天馬山 (251 m) 広瀬町上山佐

山佐小学校の真向かいにある天馬山。昔、頂上に御殿があり、それから御殿場となり、転じて天馬



山になったといわれています。山佐小の校歌に歌われ、地元で親しまれている山です。頂上付近には、世にも珍しい巨大な割石があり、気軽に楽しめる山です。

⑧ さんぐんざん 三郡山 (806.0 m) 広瀬町奥田原

⑨ ふべようがいざん 布部要害山 (183.0 m) 広瀬町布部

⑩ ざるかくれやま 猿隠山 (816.9 m) 広瀬町東比田

安来市で一番標高の高い山。東比田地区を見守るように立つ姿はシンボルのような存在で、山頂からは地区が一望できます。近年、整備が進み、御墓山までの縦走(全長約6キロ)が可能になりました。

縦走路はアップダウンが少なく、快適に天空散策を楽し



め、多くの登山客が訪れています。「縦走する人は帰る手段の準備をお忘れなく」と東比田交流センターの田邊裕子主事。

⑪ やすたようがいざん 安田要害山 (281.2 m) 伯太町安田

⑫ ひばやま 比婆山 (320.0 m) 伯太町井尻

⑬ ながえやま 永江山 (570.1 m) 伯太町赤屋

